

橋下「維新」

逆流の正体

「こんなところに浄水場を置いておく必要はない」。橋下徹市長のこの一言で大阪府市統合本部会議（1月25日開催）は、大阪市で一番古い（1914年完成）「柴島（くじま）浄水場」の廃止方針を決めました。

柴島浄水場はJR新大阪駅の南東800㍍に位置し、面積は約50畝（甲子園13個分に相当）と広大で、阪急京都線4駅にほぼまたがっています。敷地内には、赤レンガと御影石の調和が美しい水道記念館があります。橋下市長は、廃止の先取りといわ

負担2千億超

「大阪維新の会」府議団・大橋一功政調会長は昨年7月14日、柴島浄水場の立地場所を「非常に利便性の高い、有効活用が有望視される土地」と発言。浄水場廃止で不要となる施設更新

浄水場売却で喜ぶのは

第3部 府市統合本部の狙い④



大阪市水道局柴島浄水場の沈でん池＝5月2日、大阪市東淀川区

費990億円と、用地売却収入320億円を合計すれば、「1310億円の削減効果がある」との試算を公表しました。

府市統合本部は跡地を「集客魅力向上」に役立てるとし、同本部関係者は「跡地再開発となれば、民間活力が発揮され、大阪経済にプラス」と期待に胸を膨らませています。

しかし、大阪市水道局は、浄水場廃止に伴う施設撤去や配水管の再敷設などで2700億円が必要と見られ、その費用を外部から借り入れれば利息が1000億円となり、合計3700億円の費用がかかると指摘しています。

「地下に埋設したものは多い、完全撤去にはもっとお金がかかるはずだ」と、水道局関係者はいいます。

「二重の備え」

日本共産党大阪府議団の北山良三団長は、「借金を返すのは大阪市。売った土地は大手ゼネコンが開発事業でもうける仕組み」と強調します。

「安全面でも柴島浄水場は必要」と語るのは、日本環境学会会員・近畿水問題合同研究会会員の中村寿子さんです。

「右岸に1カ所しかない柴島浄水場を廃止することは、危険回避の手段を失うことになります」

(つづく)